

りす俱樂部

2020年
9月号
第284号



芝棟（しばむね）

夏が来れば思い出す。青森県を旅して描いた農家の「芝棟」の上に咲く百合の花。清楚に風にそよいでいた。百合、イワヒバ、シャガの根は、びっしりとほびこり、他の雑草を寄せ付けない。たくましい生命力で屋根頭頂の土を固め押さえて「芝の棟」を作り、豪雪、風雨から一家を守る。今はもう、その茅葺民家は、朽ち果て、郷愁と追憶のかなたに行ってしまったかもしれない。

弁護士 福井大海

介護が来た…介護は誰もが向き合う

お茶の間の話題

服部メデイカル研究所 所長 服部万里子

かつて「介護」というと、一部の人が出会う「出来事」でした。今は介護は誰もが向き合う「お茶の間の話題」になっています。あなたの周りを見てください。兄弟、親戚、友人、近隣、誰かが「介護」と向き合っていますか？

赤ちゃんは生まれると3ヶ月で首が座り、4ヶ月でハイハイして、6ヶ月でお乳以外のものを食し、1歳で立ち上がります。そして1年で1歳になります。ヒトの成長は1年ごとに年を重ねます。誰にでも同じです。子供の頃の1年は思い出が山ほどあり、長く感じられました。最近「あつ」という間に1年が過ぎていきます。そして今、日本は人口が減り始め「100年たったら江戸時代」と言われる人口減少が加速的に

進んでいます。あなたの周りでも家族、親戚、友人、近隣…誰かが鬼籍に入っていないませんか？

「多死時代」と言われています。
日本が世界に誇れるもの

日本が世界に誇れるものは何でしょうか？いろいろありますね。「清潔な国」ではトップクラスでしょう。新型コロナウイルスの陽性率が世界で低い事もそうです。

日本が世界で一番なのは65歳以上の高齢者の割合です。世界一の28%です。「うれしくないですか」でも、もう一つ誇れるものがあります。それは「長寿」です。平均寿命は男性81・4歳、女性87・4歳は世界2位です。

世界の中には平均寿命が50歳以下の国もあります。あなたが50歳

の頃を思い出してください。バリバリ仕事や、友達たくさん、まだ子育て中の方もおられたでしょう。でも日本人の平均寿命が男女ともに50歳を超えたのは戦後です。

平安時代の平均寿命は男性33歳、女性27歳と言われています。焦りますね。「早く子供を生まないと子孫が途絶える」と…。この時代は「介護」という言葉も現実もなかったでしょう。

加齢がありました。世阿弥の能の「卒塔婆小町」は卒塔婆に腰掛けた乞食の老女に高野山の僧が説教すると反対にやりこめられるというものです。老女はかつて才色兼備の小野小町の成れの果てとのこと…加齢はみじめなことでしょうか？

姥捨て伝説

長野県の篠ノ井線には「姨捨駅」があります。貧しい時代に老人は口減らしのため「山に親を捨て」ます。姥捨てです。孝行息子が泣く泣く母を背負い山の奥に捨ててに行きました。山の奥に分け入ると、背中の母が子枝をポキ…ポキ…と折るのです。「なぜ？」と問うと、「おまえが帰り道に迷わないように」…聞いた息子は国の命に背き母を家の納屋に隠したのです。

ある日、隣の国が息子の国を襲いました。「難題が解けなければ、わが属国にする」というのです。その難題は「かまどの灰で縄を緬なえ」というのです。

その難題を息子が隠した老婆が解きました。それからこの国では姥捨てはなくなつたとのことです。老人は知恵の宝庫だといふのです。老女の知恵は次回に披露します。

これから11回介護保険を、皆様と共に考えていきましょう。今回は「楽しく学ぼう！介護保険」です。

11回の内容構成

1. 楽しく学ぼう！介護保険
皆が「解誤保険」と言う介護保険…介護保険の基礎知識を学ぼう
2. 介護保険ってどうしてできたの？
健康保険とどう違うの？サービス受けないので、保険料払いたくないけど…
3. もし介護保険を使うときにはどうするの？
要介護認定からサービス利用までの流れを知りましょう
4. 私40歳元氣、夫39歳で認知症…介護保険はつかえるの？
どちらも介護保険証はないけど、どうする…
5. 要介護認定で見栄はるのは損！要介護度は途中で変更が希望できる？
要介護認定の仕組みと介護度7段階
6. 具合が悪く病院に行ったら「介護申請してますか？」と聞かれた
もし、入院したら介護保険が使えるの？健康保険と介護保険の違いは？
7. 介護保険のサービスと自費サービスの違いは何？
保険サービスと限度額を超えた保険サービスって何？
8. 介護保険財政は黒字続き…って本当
来年また「介護保険料」上がると聞いたけど…
9. 介護保険がスタートして20年間…6回も法律が変わった？
介護保険のサービス値段は全国一律？
10. 介護保険で利用者に得すること、損することは何？
1割負担、2割負担、3割負担でどうして毎年変わるの？
11. 日本の介護保険って世界で劣るの？優れているの？？
諸外国との違いはどんなこと



本誌第283号(2020年7・8月合併号)掲載の『山の神様こと大塚茂人さん逝去』に寄せ、谷本丈夫先生、谷田貝光克先生からお便りをいただきました。

谷本丈夫先生(宇都宮大学名誉教授・牧野植物同好会会長)より



ただ驚きです

猛烈な残暑の中お元気にお過ごしのことと拝察いたします。りすの機関誌拝読、大塚さんの追悼の文にただ驚きです。

米寿のお祝いに出席させて頂き、御長寿も見習いたく思ったことでした。残念です。チャン立農家大学卒業の大先輩としても、学ばせていただくことの多かつた大塚さんでした。

ただ驚き、ご冥福をお祈り致します。

※「チャン立」とは谷本先生の造語で「父ちゃん立」つまり伝統の継承という意味です(松島)。

谷田貝光克先生(東京大学名誉教授・

NPO農学生命科学研究支援機構理事長)より

りすシステム 松島如戒様

残暑お見舞い申し上げます。暑い日が続いておりましたが、お変わりないことと思います。コロナもいったん収束しかけて、また感染者を増加させているようですが、早く平常な日に戻ってほしいものです。

いつも『りす倶楽部』を楽しく読ませていただいています。たくさんさんの情報に勉強させて頂いています。記憶に残る記事も多くあります。大黒様を山の上にあげたときのことなど、松島様の心の内を読み取ることができました。

ところで今回の283号は大変残念な知らせを拝見することになりました。

山の神様、大塚さん、しばらくお会いしていませんでしたが、そのうちにまた、お

会いできるだろうと思っていただけるところでした。りすシステムからお贈りいただいたカボスでも、彼の顔が浮かびました。

庄内弁(?)で朴訥に話す大塚さんは、栃木弁のなまりの抜けない私にとっては心休まる先輩であり、先生だったのです。山仕事についてはもちろんのこと、くらしの中でのいろいろなことを教えてもらいました。

地域活性化、山村の活性化といった言葉がよく聞かれる今日この頃です。都会からの資本を持ち込んで活性化する、人材に移り住んでもらって新しい事業を展開するといったことが、ごく当たり前のようになっていて、それが地域活性化につながると思われています。

しかし、その前にその土地でくらし、その土地のことを一番よく知っている人たちの知恵や技術を活かすことが、本当の地域活性化になるのではないのでしょうか。

そのように考えると、大塚さんはまさに

その人そのものです。大塚さんのような人が先導して、都会からの物資や人材はその後押しをすることで、地域に根付いたものに再び光を当てることができると思うのです。

わが国には古くから伝わる技術がたくさんあります。それを現代の言葉ではナレッジ (knowledge) というようですが、わが国のナレッジを開発途上国に持ち込んで、地域活性化を図ろうという動きも最近見られます。この活動で注意しなければならぬことは、こちらの技術を相手に教えるという立場をとり、上から目線になることです。

私はこれまでも、技術指導という立場で数多く開発途上国を訪れて、現地の人たちと共に仕事する機会を得てきました。そんなときに彼らから学ぶものが数多くあるのです。一方的にこちらから押しつけるよりも、彼らの持っているものを活かしながら、その活用を図ることが大切であることを知らされます。

長い歴史の間に現地に根付いてきたものを活かしながら、さらにそれに手を加えて利用しやすくしていくことが大切であるように思います。

少し長くなりましたが、そんなことで大塚さんの持っているような技術、知識を活かして地域活性化をすることが、その地元で根付き、そしてその文化が持続されていくように思うのです。生き字引のような大塚さんが早死にしたことは残念です。

心からお悔やみ申し上げます。暑さ厳しき折、どうぞご自愛ください。



6月25日ラベンダー



8月10日ヒマワリ



9月12日 除草部隊としての活躍が期待されるヤギ



〈地球に恩返し of 森〉の活動を ブログで発信しています！



地球に恩返し of 森づくり事業部では、2009年以降、〈地球に恩返し of 森〉(大分県由布市庄内町)づくりを通して、様々な環境保護運動をしています。日々の活動の様子を、〈地球に恩返し・くすりの森 of 「しんの」ちゃん〉ブログで発信していますので、ぜひご覧下さい！季節の美しい写真もたくさん掲載しています。ご訪問お待ちしております。



<https://ameblo.jp/liss-shinno/>

地球に恩返し しんの



5月25日小麦の刈取り



5月31日小麦の脱穀



5月28日イチゴ



5月26日オリーブの花



6月6日オリーブの実



7月4日大きくなったオリーブの実



支部



活動記

北海道・北日本支部

▼新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新しい生活様式が提言され、数ヶ月経過しました。この間、直接お会いして行うサポートは減っていますが、身元引受保証や高齢者住宅等の連帯保証の受託業務はやや増加しています。

入院に必要な物品の指示を受けたので、ケアハウスに出向いて準備し、ケアハウスの相談員から、冷蔵庫と鍋に残っている食品の処分、洗濯等の依頼があったので、対応しました。

▼外出自粛による体力低下が原因でしょうか、転倒したとの報告が増えています。大事に至らず様子見の方がおられる一方、入院・手術が必要になった方もおられました。

翌々日、手術立会いで再訪問しました。県外在住者は病棟に入れないため、1階待合室で手術終了まで待機。手術は2時間半ほどで終了し、医師の説明を受けました。現在Jさんはリハビリ中で、退院後の生活について施設の相談員と話し合っています。

Jさん(87歳・女性)が暮らすケアハウスから、Jさんが転倒し救急搬送されたと連絡があり、搬送先に急行。大腿骨頸部骨折の診断で入院・手術を受けることになり、手続きしました。

相談員から、「転倒の際の骨折防止のため、部屋にコルクマットを敷いてはどうか」との提案があり導入していますが、回復の具合をみながら、入居しているケアハウスの系列の介護老人保健施設

(老健)への入所も検討しています。

▼「コロナが落ち着いたらぜひ訪問して」と記された確認シートをいただきました。訪問を楽しみにして下さっていると思うと、励みになります。

また、「皆さんもコロナに気を付けて、ご活躍下さい」と、スタッフを氣遣うお言葉もいただきました。ありがとうございます。もう少しの辛抱と信じ、一緒に頑張っていきましょう。



東日本支部

▼Yさん(90歳・女性)がりすシステムと契約したのは、7年前の夏のことでした。その年の春、ご主人と一人娘を相次いで亡くした

Yさんは、複雑な事情があり、親族に頼ることができない状況で、そんなYさんを心配した知人がりすシステムを紹介し、契約に至りました。

契約後、施設への転居やご主人の納骨など各種サポートが続く中、施設での生活にも慣れ、しばらくは落ち着いた生活をしていました。Yさんですが、昨年から度々、腹痛を訴えるようになりました。近くの病院に通院していましたが、施設の訪問診療を担当している医師から、原因を特定するため大腸内視鏡検査を勧められました。

以前から、通院や治療に対する拒否感があったYさんですが、身体的に負担の大きい検査を受けていただくか否かの、難しい判断を迫られる事態となりました。

コロナ禍のため、施設の責任者、訪問診療の担当医、りすシステムで電話による打ち合わせを行った

結果、検査で原因が特定出来たとしても、体力的にYさんが治療に耐えられるかどうか分からず、そんな中、本人が嫌がる検査を強制することは出来ない、という結論に達しました。

施設長がYさんに聞き取りを行い、検査・治療に対する希望や終末期の過ごし方に関する本人のお気持ちを文書に書き起こし、Yさんに署名してもらいました。

Yさんのお気持ちは、「痛く苦しい検査や治療はしたくない（へ中略）。ここでご飯を食べて、みんなと交流して、その時（終末期）を自然に静かに迎えたい」というものでした。

さらに終末期の対応について、施設・訪問診療の担当医・りすの三者で、Yさんの意向に沿った内容の同意書を取り交わしました。

二ヶ月後、施設から、「Yさんの容態が急変し、意識レベルの低

下や下血があるので、救急搬送します」と連絡があり、緊急の医療的ケアが必要な状況だったので、やむを得ない判断でした。

救急搬送から20日余の後、Yさんは施設に戻ることなく、病院で息を引き取りました。

最期まで施設で過ごしたいというYさんの願いは叶わず、またコロナの影響で、親しい方との面会もままならない中での旅立ちとなり、心残りです。

しかし施設職員から、救急搬送の前日まで、いつも通りの日常を過ごしていたYさんの様子を伺うことが出来、またお見送りの際、たくさんのお花で満たされた柩の中のお顔がとても穏やかだったことに、救いを感じています。

Yさん、どうぞ、安らかに。

中部日本支部

▼自宅マンションに二人暮らしのSさん夫妻は、2000年にりすシステムと契約しました。

お互いが持病を抱える中、支え合って暮らしていましたが、2年前、ご主人の入院を機に要介護認定を申請し、施設入居を検討。候補の施設の見学に付き添いました。が転居には至らず、そのままマンションでの暮らしを続けていました。

その後、サポートの依頼はありませんでしたが、今年6月下旬、ご主人が呼吸困難で救急搬送されたとの連絡が搬送先からあり、急行。肺炎の診断で入院となり、りすシステムで手続きをしました。

ご主人に付き添ってきた奥さんも、ご主人の一大事でパニック状態になり、持病もあることから医師の判断で入院しました。

入院先は急性期病院だったため、一週間程度で地域包括ケア病棟のある病院へ転院する必要があり、病院のソーシャルワーカーに相談して転院先を探しました。

また医師から、退院後は自宅マンションでの暮らしは難しいと言われ、夫妻、ソーシャルワーカー、りすで話し合い、施設に入居することとし、転院先探しと同時進行で、入居可能な施設を探しました。

転院先が決まり5日後に転院。また退院後の入居先施設として、夫妻の要望に沿った施設と契約出来ました。コロナ禍、当事者は入院中という状況なので、引越しの手続き・作業、施設入居に関する契約手続き等は、すべてりすが代行しました。

夫妻は8月上旬に退院出来、そのまま施設に入居しました。コロナ禍のため入居後2週間は自室から出られず、食事も自室で摂るな



ど、窮屈な生活を強いられました
が、現在はそれも解除され、ご主人は、「富士山が見える、いいお部屋ですね」と喜んでおられます。

ご主人の救急搬送から目まぐるしい日々でしたが、夫妻が新しい環境に馴染み、穏やかに暮らせるようサポートを続けます。

病を患っていましたが、デイケアでは習字や手芸をされ、自作のブローチを胸に飾り、指にはマニキュアをなさるなど、日々の暮らしを楽しみながら、心臓に持病を抱えたご主人と寄り添って暮らしていました。

入居から数年後、ご主人が持病の悪化で旅立ち、二人部屋から個室に移動したEさん。現在は要介護5の状態、手厚い介護が必要ですが、面会で訪ねた際は笑顔で迎えて下さいます。

最近、ホームの管理費に加え、介護・医療費、生活用品（消耗品）購入費等、月々の支払いが増え、将来的な資金繰りを不安視されるようになったことから、ホーム長、ケアマネージャーと話し合い、特別養護老人ホーム（特養）への転居を検討することになりました。

高齢者住宅紹介センターにも紹介を依頼し、ホームの訪問診療の担当医からは、いったん介護療養型医療施設に入ってはどうか等のアドバイスもありましたが、先日ケアマネージャーから、Eさんの年金の範囲内で暮らせる特養を紹介され、手続き中です。

Eさんが終の棲家で安心して暮らせるよう、サポートを続けます。

▼6月中旬、大阪のサービス付き高齢者向け住宅に暮らすNさん夫妻（ご主人94歳・奥さん91歳）が、

広島の介護付有料老人ホームに転居することになり、西日本支部スタッフと連携し、サポートを行いました。

夫妻はもともと広島の実家で暮らし、頻繁に外食などを楽しむ日々でしたが、お二人とも90歳を超え、施設でゆっくり生活したいと自宅を売却、広島の実設に入居しました。



西日本支部

▼有料老人ホーム入居を機に、Eさん（90歳・女性）がご夫妻ですシステムと契約したのは10年前のことでした。

契約時、Eさんはパーキンソン

では、退居を申請した日から退去



その後、思い描いていた施設ではなかったとのことで、大阪の施設に転居しましたが、想像とは全く違う生活だった上、コロナ騒動でストレスがたまることもあり、広島に戻ることにしたそうです。

フが退去手続き・転居届け・引越し作業等を行い、引越し当日は夫妻を広島までお連れしました。広島駅新幹線口で中国支部スタッフが出迎え、転居先の介護付有料老人ホームまでタクシーでお送りしました。

転居先施設は夫婦部屋がないため個室を二部屋契約し、それぞれ寝室とリビングとして使うことにしました。コロナ禍のため、入居後二週間は部屋から出ることが許されず、食事は施設職員が部屋まで運んでくれました。家具類等はりすで購入して施設に届け、引越し時の荷物とともに、施設職員に整理をお願いしました。

入居から二週間が経ち、そろそろ窮屈な生活から解放される頃、ご主人から、「この施設を出たい」という電話がありました。15分だけ面談が許されたので急ぎ施設へ向かい、防護服・マスク・手袋を

着用して夫妻とお会いし、お話を伺いました。

ご主人によると、「私たちは終の棲家を探しています。この施設の職員さんはいろいろ気遣ってくれるし、ご飯もおいしい。でも自由度がなくてしつくりこない。福山に良さそうな施設を見つけたので、そこに移ろうと思います」とのこと。奥さんのお気持ちを聞きすると、「私は主人についていただけです」とのことです。

ご主人はいつも、全国の介護施設が紹介されているガイドブックを見ながら施設を探しておられるようで、今回見つけた福山の施設も、そこに掲載されていたとのこと。既に電話で問い合わせ、空きがあることを確認済みで、保証人は必要ないそうです。

改めてネットで調べたところ、90歳を超えたお二人が入居するには、医療・看護面で不安が残りました。そこでご夫妻に、「ガイドブックだけで入居先を決めるのは危険です。施設の運営母体や経営状況、入居条件などを調べ、実際に見学してから決めたい」と思い、これ以上転々となさると、経済的にも負担となります。福山の施設も今の施設同様、二人部屋はないようなので、もう少し検討しませんか。こちらでも探してみます」とお伝えし、納得いただきしました。

施設探しに限ったことではありませんが、希望をすべて満たすことは困難です。まずは、優先順位をしっかりと定めることが大切だと思います。

九州支部

▼本誌第283号(2020年7・8月合併号)で紹介したMさん夫妻。ケアハウスから介護付有料老人ホームへの転居を控えていましたが、転居作業にいそしんでおられた奥さんが、転居目前に立ちました。

7月上旬の夕刻、ケアハウスから、「奥さんが胸の痛みを訴えています。これから救急搬送しますので、搬送先に来てもらえますか」と連絡があり、急行しました。

搬送先では救急外来混雑のため、検査にかなりの時間を要し、主治医の説明まで長時間待機することになったので、一緒に待機していたケアハウスの職員には後ほど結果を伝えることにし、いったんケアハウスに戻ってもらいました。

5時間後、主治医から病状説明



があり、胸部大動脈溜破裂の診断でした。手術を受ける場合は転院する必要がありました。奥さんは、「主人を遺して今、逝くわけにはいかないが、手術のリスクを考えると…」と、搬送された病院での治療を選択しました。

抗原検査の結果、即入院となり治療が開始。HCU (High Care Unit 高度治療室) に入った

奥さんとの面会は、検温等の入室チェックが厳しく、短時間に限られました。

「今、夜中の2時くらいですか？こんなに遅い時間まで、申し訳ないです…」と、時計のないHCUで恐縮なさる奥さんに、「ご主人のためにも、がんばって下さい」と声をかけ、家族待機室へ戻りました。また会話の中で、胸の痛みに加え背中への痛みも訴えられたので、看護師に伝えました。

30分経過した頃、容体が急変。

呼ばれてHCUに入室したところ、主治医の他、数名の医師が奥さんを取り囲んでおり、もう先ほどの奥さんではありませんでした。2時35分に死亡確認され、主治医から病理解剖の要請がありました。医療上の判断に関する前意思表示書に沿い、お断りしました。

その後、ケアハウスへの報告、葬儀社への連絡等、死後事務を進める中、最も心を痛めたのは、奥さんの逝去をご主人にお伝えすることでした。ご主人は一ヶ月後にせまった介護付有料老人ホームへの入居に備え、介護老人保健施設(老健)でリハビリをがんばってこられました。コロナ禍のため、入所当初からほとんど面会が出来ていなかったため、老健の職員と打ち合わせ、タイミングを見計らって、奥さんが亡くなったことを伝えてもらいました。

知らせを聞いたご主人は、当初動揺され、通夜・葬儀には、この老健から遠い博多まで出向く必要があるのだろうか、不安をつのらせておられたとのこと。老健に近い斎場で通夜・葬儀を執り行う旨をお伝えしたら安心されたようですが、コロナ禍なので、全てりすさんにお任せします、とおっしゃいました。

8月下旬、奥さんの納骨を、功徳院大分本院で執り行いました。お一人になったご主人を、今後も契約家族として支えていきます。



大分支部

▼コロナ禍で、りすシステムのイベントも中止・延期を余儀なくされ、施設等では面会・外出禁止の



措置が取られるなど、皆さんとお目にかかれないう状況が続いています。

そんな中、「帯状疱疹にかかり、つらい思いをした方」「体調を崩し検査入院した方」「朝方めまいがして気分が悪くなり、セコムのマイドクターで救急信号を発信、救急搬送された方(次項で紹介)」がおられました。

また、「大阪への転居を決め入居契約し、引越し日まで決めたが、連日のコロナ報道で怖くなり、転居を断念されたご夫妻」もおられ、事態の収束が待たれます。

心配ごと・困ったことがある方、話してほっとしたい方など、お電話下さい。こちらが忙しいだろうと気遣って下さる方もおられますが、遠慮はご無用です。

▼救急搬送されたKさん（86歳・女性）から、「何かお役に立てば」と、搬送時のことを記したお手紙をいただきました。

生来、私は至って健康で、丈夫

に生み育ててくれた亡母に感謝している。特に歳をとってからは、その思いを強くしている。昨年は長崎へ一人旅をし、その醍醐味を忘れ難く、今年は広島、熊本へと考えていた。この歳で一人旅が出来るのは勿論、健康が第一であるが、もう一つの安心材料があるからだ。それはりすの『緊急連絡カード』。これがなければ一人旅はできなかつたと思う。

これ程元気だった私が、新型コロナウイルスの蔓延、緊急事態宣言の発せられた頃から何となく体の不調を覚え始めたが歳も歳、今までが元気づぎただと思っていた。外出自粛もこれまでの一人暮

らしと大して変わらない、影響は受けなかつたと思っていた。

ところが5月の連休明けから食欲減退、高血圧、胸部不快、頭重感など、これまでにない身体の不調が増してきた。

6月のはじめ、早朝に何とも言えない胸の不快感があり、すぐに収まったが、続く頻脈に不安になる。それも収まると、その日の趣味の会にも出かけた。気分が優れないからと家にこもっていかれば、ますます心身の不調が増すばかりと思つた。

6月下旬のある日、座禅会に行こうと起き上がると目まいが始まる。すぐに横になる。すると心臓が早鐘のように打つ。様子をみていくうちに症状が進んで誰も呼ぶことが出来ずに、ここで死んでしまったら多大な迷惑をかけることになる、枕もとの「マイドクター」を手にとった。がすぐには押せな

かつた。迷惑をかけるとの思いが躊躇ためらいになった。思い切つてブザーを押す、救急隊の方が見え、あれこれ聞き、指示をするが思うように体が動かず、頭も働かない。緊急連絡用のステッカーの在りかも頭に浮かばないし、常時バッグに入れて持ち歩いているポケットサイズのカードもその日に限つてバッグにないのだ。

結局、アドバイザーさんに直接連絡を取るところとなり迷惑をおかけした（後に緊急連絡用ステッカー、カードを最良の場所に張り替えた）。

幸い、近くの病院に搬送され諸々の検査を受けたが、結果は異常なしという診断であつた。朝早いのに遠くから馳せつけてくれ、声を掛けてくれたアドバイザーさんのお顔を見たとき、本当に嬉しく安心した。

自分はちゃんとしていると思つ

たがこの始末。それにしても、約2ヶ月間のあの体の不調は一体何に起因したのだろうとふり返つた。そして思つたことは「私はコロナにやられた」で、8月に入り、曇り空が晴れていくように私は元気を取り戻した。改めて、りすとセコムに感謝、感謝である。ありがとうございました。

急病時などは、セコムのペンダント型「マイドクター」を握るだけで、救急信号がセコムに伝わります。



先日、Kさんに様子伺いのお電話を入れたところ、「6月の病院通いが嘘みたいなのに、調子がよく元気に過ごしています」とのことので、安心しました。



地球に恩返しTシャツ・ポロシャツ



人気のカラーです！



カラフルでかわいいロゴ付きの〈特製Tシャツ・ポロシャツ〉です。お買い上げ金額の一部を、りすシステムから「地球に恩返し基金」へ寄附いたします。ご協力よろしくお願ひいたします。通信販売も承ります。ご希望の方は0120-889-443までご連絡下さい。

Tシャツ

■定 価：2,000円（税・送料込み） ■サイズ：S・M・L
■カラー：ホワイト・ピンク・イエロー・ライトグリーン・ライトブルー

ポロシャツ

■定 価：2,500円（税・送料込み） ■サイズ：S・M・L・LL・3L
■カラー：ピンク・ネイビーブルー

地球に恩返し運動について



私たちの生命を育てている地球!! このやさしい地球に少しでも恩返しをして、次世代に美しい地球を残しませんか。皆さまのご寄附で「地球に恩返しの森」に植樹ができ、銘板にあなたのお名前が刻まれます。

※匿名希望の方は、振込用紙の「通信欄」に「匿名希望」と、ペンネーム希望の方は「ペンネーム」を明記の上、「ご依頼人欄」には必ずお名前をご記入ください。

NPO りすシステム
地球に恩返しの森づくり事業部

地球に恩返し運動本部

連絡先：TEL.03-5215-2383

地球に恩返し 基金振込先

● 郵便局から振り込む場合
郵便局口座番号：00140-7-743432
加入者：地球に恩返し基金

● 他行からゆうちょ銀行に振込む場合
店名：〇一九（ゼロイチキューウ）
種目：当座 口座番号：0743432
加入者：地球に恩返し基金



「地球に恩返し基金」に寄附をいただき、ありがとうございました

かい ゆうこさん（埼玉県所沢市）

中野 壽美子さん（東京都豊島区）

匿名 1名 50音順



※ 2020年8月1日～8月31日の期間、3名の方から寄附をいただきました。

NPO りすシステム

0120-889-443

りすセンター・新木場

0120-373-959